

市町村名	総人口	青少年人口 (0~24歳)	青少年比率 (%)	少年人口 (6~19歳)	少年非行数 刑法犯少年	非行少年比率 (1,000人対比)
畑野町	5,878	1,427	24.3	982	1	1.0
真野町	6,931	1,812	26.1	1,188	6	5.1
小木町	4,392	1,208	27.5	852	3	3.5
羽茂町	5,129	1,290	25.2	782	6	7.7
赤泊村	3,381	791	23.4	507	2	3.9

資料出所「警察本部少年課」

お便り

謹啓

二年続きの豪雪に能生は泣いており
ます。今「節分」をすませましたが、
「鬼は外」の豆は雪の壁にはね返さ
れてしまいました。あながい「鬼」
は「雪」かも知れません。
教育情報「第四号」を熟読させてい
ただきました。とりわけ「よみがえ
る能生中」については一字もらさず
何回も読みかえました。
昨年来少なからずPTAに携わって
来た者としては、面映ゆさすら感じ
ました。

広報「飛躍」を取りあげていただい
たことで、記事がより「ナマ」になっ
たように思います。

調子に悪のりするようで収縮ですが、
最新号を同封させていただきました。
「正常化」「鎮静化」に果した広報
活動の役割は少なくないと自負して
おます一人ですが、今号における
「隣接校は自分の子どもを通う学校
をどうみているか」というテーマは
割と新鮮なとらえ方でないかと思い
ます。末筆ながら今後共ご指導下さ
いますようお願い申し上げます。

敬具

能生中PTA広報部 吉岡 直実

編集後記

今年も暑い夏でした。四十日余の
真夏日の連続、本当に暑い夏でした。
昨年は二坪の事務所、四十度近い酷
暑の中で、三人のうち誰か一人は立っ
て仕事をしなければなりませんでし
た。今年は十坪の部屋に移り、四人
(事務局一名増)とも腰をかけて仕
事をする事ができました。

しかし、財政は火の車、(事務所
費だけがその原因ではありません。
大家さんのご好意で格安に借りてい
ます)心の休まらない毎日です。

本誌のページ数を減らさなければ
ならなかったのも、毎号の発行費を
極度に低く押さえなければならぬ
破綻に瀕した財政事情によるもので
す。ほかの仕事はともかく、機関誌
を定期的に発行しないわけにはいき
ません。財政確立のためにも、お互
い会員拡大にとりくみたいものです。

七号は、「子ども青年をどうとら
えるか」というテーマで、保育園、
小学校、中学校、私立高校、公立高
校、大学の先生から貴重な実践から
にじみ出た原稿をいただきました。

吉田三男氏の原稿は、それらを総
括する意味も含めて書かれたもので
す。発達の段階、その他いろいろ

ものの複合で、現れた現象は異って
いても、現代社会の反映であるとい
うことで根はひとつです。大変な状
況の中で大変な実践をされているこ
とに頭が下がります。子どもをみる
眼は実践によって養われ、この眼が
また実践を確かなものにするという
相互依存関係は否めない事実です。

山川蒼生子氏のすばらしい実践、
吉岡直実氏のありがたいお便り(資
料同封)は第六号に掲載する予定で
したが、七号になってしまいました。

また、重澤修三氏の小説「少年の口
笛」、片岡弘氏の「子どもをどうと
らえるか」星アキ子氏の「子育てと
学校」は、七号掲載の予定で原稿を
頂戴しましたが、前に述べたような
財政的な理由で八号に持ち越しにな
りました。ご容赦下さるようお願い
申し上げます。用意した資料もやむ
を得ず割愛しました。

十二月発行の第八号からは、A5
版(「教育」等普通の雑誌のサイズ)
七十二ページになります。字数は減っ
ても質は落とさず、バランスのとれ
たものにしつたいと編集委員は考えて
います。

六号五四ページ下段三行目「一五
人」を「一五〇人」に訂正します。

(若月文次郎)